

朝の礼拝

聖書 箴言 1 章 7 節（旧約聖書 923 頁）

主を畏れることは知識の初め
無知な者は知恵も諭しも侮る。

知識の初め

聖書の民が歴史の表舞台に登場するのは古代エジプトの奴隷からです。彼らはエジプトを脱出した後、パレスチナを約束の地と信じ王国を築きました。ダビデは部族を統一し、エルサレムに都を定め、軍隊を編成し王国を築きました。そして息子ソロモンは神殿を建立し、世界貿易で繁栄を極めたのです。

ソロモンが王に即位した時、神は夢に現れ「願い事があれば、言いなさい。かなえてあげよう」と言います。彼は「わが神、主よ……。私は未熟な若者で、どのように振る舞えばよいのか分かりません……。民は多く、その多さのゆえに数えることも調べることもできません。」と嘆きます。

そして「どうか、このしもべに聞き分ける心を与え、あなたの民を治め、善と悪をわきまえることができるようにしてください」と願い祈るのです。神はソロモンが自分の長寿も、富も、そして敵の命も求めなかったので、民の訴えを聞き分ける分別、知恵に満ちた聡明な心を与えると約束しました。

ところが栄華を極めたソロモンは驕り高ぶり、欲に溺れ、国は南北に分裂します。わずか四十年の栄枯盛衰でした。冒頭の「知識の初め」とは神の選び、導き、そしてその恵みに驚き、喜び、感謝し、敬い、日々聖書の言葉を聴くことです。それは、今も英和の生活で確かめられる恵みです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは若きソロモンの祈りを聞き、民衆の声を聞き分け、善悪を見極め、民を治める力を与えられました。どうか英和生として選ばれ、あなたのみ言葉に耳を傾けるわたしたちも真実と向き合い、あなたの選びと導きを畏れ敬い歩ませてください。どうか愚かにも分かれ争う者に悔い改めの心を与え、嘆き悲しむ人々の祈りを省み、ひと時でも早くあなたの平和を実現してください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン